

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270800036		
法人名	有限会社 夢無限		
事業所名	グループホーム 夢無限 おおひと		
所在地	静岡県 伊豆の国市 田京929-5		
自己評価作成日	平成30年 3月 29日	評価結果市町村受理日	平成 30年 6月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2270800036-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 30年 4月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外気浴や散歩を実施し、外気に触れ季節を感じて頂いたり、近所の方と話をしたりと社会との接触の場を持つよう努めている。奉仕作業にも、入居者様と一緒に参加したり交流できるようにしている。個別リハビリや体操を取り入れ体力、筋力の保持に努めている。個々に合った生活リハビリを行う、出来ることを個々に発揮できるように充実した日々を送って頂くようにしている。自由にして頂きながらも入居者様の同士が交流できるように心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれ、四季を感じられる環境で、ほぼ毎日利用者は施設の周りを散歩し、外の空気に触れている。また、利用者は日常生活の中で自分達のできる清掃、洗濯たため、調理の下ごしらえ等を熱心に行っていて、職員はグループホームの良さを理解しているので、利用者一人一人を大切に重い、生活リハビリでできることを見守りやる気が継続するように支援している。利用者から寄せられた希望はできるだけ聞くように、職員が情報を共有して実現に向けて取り組んでいる。法人代表が主治医で、1ヶ月に2回の診察の往診のため、ほぼ毎日グループホームに訪れながら他の利用者の健康状態に留意してくれるので、早めに対応ができ、利用者、家族、職員が安心して生活を送れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様が日々穏やかに安心して過ごせるよう職員同士情報を共有しながら取り組んでいる	理念を示した掲示物を掲示する場所を増やし、申し送り時など職員が目にして意識するようにしている。会議では必ず利用者の日頃の様子を情報交換しながら理念に沿ったサービスができているか話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	奉仕作業や防災訓練に参加し交流を深めている	自治会に加入して、回覧板が回ってくる。地域の草取りの奉仕作業、防災訓練には職員と共に利用者も参加している。年に寄っては雪かき作業も地域と協力して行っている。散歩の時に近所の住民に声をかけるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩中に挨拶や会話をしたり行事への参加、パンフレットの配布などし理解をお願いしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	計画したが、開催できず開催に至っていないものの、近隣との交流に努め行事へ参加している	会議開催の計画を何度も立てたが、行政、地域包括支援センター、家族、職員のすべての参加調整が難しく、計画倒れになってしまった。	年間計画をたて、行政や地域包括支援センターの職員に早めに日程を伝え、同じ系列の職員や地域の人、家族に参加してもらい、少しずつ参加者を増やし、まず開催できるような工夫に期待します。議事録を家族に送付して内容を把握してもらってください。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケア会議に参加し連絡が出来るようにしている	月に1度の地域包括支援センターのケア会議に出席している。他の事業所や警察、民生委員も参加しているので、情報交換ができていて、行政職員との連携もできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。職員同士対応の方法に注意しながら、ミーティングなどで意見交換をしている	月に1度の会議で拘束について話し合うようにしている。また、職員は拘束についての勉強会に参加している。家族の希望で座位を保てるようにしている利用者は、医師と相談して行っていて、毎月家族とも話し合いをして見直しをしている。	

静岡県(グループホーム夢無限おおひと め組)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや、職員同士で常に対応について共有、注意をし支援に努めている。家族とも面会時に報告したりと意見交換をしてる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ガイドブックなどを購入し理解が出来る様に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて説明をしている。電話や面会時に報告させて頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話あう時間を作り、希望を出来るだけ反映できるように心掛けている	利用者にはやりたいことを常々聞いている。面会の時やケアプランを立てる時に家族に聞き、事業所に来れない家族には電話をしている。草取りをしたい、家事をしたいという要望には無理をしないで行ってもらえるように支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に3回の会議があり、報告しアドバイスや方針について話合う機会がある	月に1度、会議を実施している。同系列の他施設の会議が月に2回あり、出席し交流していて、お互いに応援体制を取っている。施設の設備が古くなっているのを、職員と知恵を出し合って修理、改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と常に話す機会を設け現状報告、勤務についての改善等を行えるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のグループの勉強会、3か月に1回の夢無限開催の勉強会 年1回の研究発表会などがあり、常に学ぶことを提供し参加を促している。ホーム内でもケアについていつでも相談、アドバイスできる環境作りを心がけて対応している		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと め組)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回のグループの勉強会、3か月に2回の夢無限開催の勉強会 年1回の研究発表会に参加し交流できるようにしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学、面談時に本人、御家族の言葉に寄り添い安心した生活が提供できるように情報収集に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族やケアマネと面談しながら、御家族の思いを受け止め反映できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族にとって良い環境が何なのかを見極めケアに反映し、その時々他事業所へ相談している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること得意な事を把握し、生活やレクリエーションの中に取り入れたり、入居者間の関係保持にも役立てている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を常に報告、話し合い御家族にも協力して頂いている。面会時には居室で過ごして頂き現状を見て頂ける様に支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由にして頂いている。外泊や外出も本人の要望に添えるように努めている	面会や外出、外泊は本人や家族の要望に応じられるように健康管理に気を使っている。利用者の100歳の祝で家族と外食をされ、お酒を少々召し上がったとのことでした。	

静岡県(グループホーム夢無限おおひと め組)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活リハビリ、レクリエーションより気の合う仲間出来るように環境を整えたり、会話を楽しめる場面を提供している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設、入院などをしても訪問、面会をしたり、いつでも連絡を近況を伺えるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションや関わりを増やし、又、言動より感じ得るように。職員間の情報交換より把握できるように心がけている	家庭的な雰囲気の中で、利用者は穏やかに生活をしている。利用者目線と目線を合わせ、落ち着いた声で対話をしている。長く勤務している職員が利用者のことを理解して希望や意向を聞き出して、職員全員で情報を共有している。	職員は接遇等の研修を行い、利用者の意向を汲み取れるようにしているが、全職員が利用者の意向を把握できるまでには至っていない。更に研鑽を深めて下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報、御家族との会話から多くの情報が得られるように把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェック表を個々に作成し、日々、月、年間でのあり方を一目でわかるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、御家族の希望を常に聞き職員間で話し合い、計画作成に反映できるようにしている	日頃から職員全員で利用者全員をケアし、気づいたことをシートに記入している。リーダーがそのシートを参考にまとめて、ケアマネジャーに報告して介護計画を作成している。作成段階で主治医にも相談している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の個々の記録を充実し、ケアの改善などユニットごとに話し合い決定している		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと め組)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	情報より、家ででの生活と変わらないケアの提供が出来るように業務変更や、柔軟に対応できるように 心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設医により日常の状態を報告しているが、御家族の以降を優先し必要な医療が受けられるようにしている	医師は利用者1人に月に2回の往診なので、ほぼ毎日のように来てくれ、利用者全員の健康状態を把握している。訪問歯科の往診も定期的であり、歯の治療や口腔ケアを行っている。他科受診は家族対応だが、時には職員が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早期発見、早期対応に努め、24時間体制で主治医、看護師に連絡が出来るようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関、御家族と常に訪問、連絡を取り、入退院を円滑に進められるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に話し合い、御家族の意向を聞く、又状態の変化に報告、対応方法を話し合い職員全員が対応できるようにしている	入居時に同意書を得ている。重度化した時、終末期には医師が家族に現状を説明し、家族や本人の意向を聞いて職員を含め話し合っており、対応している。職員は終末期の対応の研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、防災マニュアルを作成している。定期的に訓練を行っている		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと め組)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練、他事業所とも避難時の協力体制が整っている。常に情報交換をしている	地域の訓練には利用者と職員が参加している。施設内の訓練は年に2~3回、夜間、日中、火事、地震、水害を想定して実施している。施設が水害指定をされているので、想定し系列の施設への協力依頼等のマニュアルを作成した。	昨年、水害の避難警報が出たため、避難を行った。今まで机上の避難マニュアルであったが経験したことで課題が見つかった。これから、雨の多い季節になるので、課題を克服して安全に避難できるようにして下さい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の性格、人格を尊重し失礼のない言葉かけをするように、職員同士も気を付け対応している	トイレの誘導の声かけ等は小声で、利用者のADLにあわせ個別に対応している。職員同士で注意しあっているが、ベテラン職員がケースに応じてのケアを教えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定が出来るような場面を提供できるように支援し、得意、好きなことをしながら気持ち良く過ごして頂ける様に支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リハビリ、レクリエーションへの参加には、必ず言葉かけをし自由に参加、本人のやりたいことを重視できるように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師に定期的に来てもらう、なじみの美容院 床屋に行く入居者様もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を献立や、おやつに取り入れる。準備や片付けを一緒に行っている	好きな食べ物や食べたいものを利用者に聞いて職員が献立を考え、食材は地元の業者に発注している。調理の下ごしらえやお茶を入れる、食器拭き等利用者に手伝ってもらう。買い物で好きなおやつを選んで購入したりコンビニエンスストアで好きな物を食べることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせ、常食からミキサー食まで個別に提供している。1日の食事量、水分量を記録し提供している		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと め組)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔内の清潔に努めている。本人の意思を尊重している。義歯は毎日ポリデントにつけ清潔保持をしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表より個々の排泄パターンに合わせてトイレでの排泄を促し、トイレに行きたい時に支援出来る様な言葉かけに気を付けている	トイレの誘導は羞恥心に配慮している。何回も行きたがる利用者にも拒否をしないで対応する。利用者の体調によってパットを変えたり、日中布パンツで夜間はリハビリパンツにする等、できるだけトイレで排泄するように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立、水分、適度な運動を取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、午後より入浴をしている。希望に合わせてるように時間設定に気を付けている別ユニットでも入浴できるようにしている	週に3回の入浴を実施している。毎日入浴している利用者もいる。浴槽の関係で車椅子の利用者がシャワー浴になってしまっているのが課題で対応を検討している。温泉に行きたいという声があり、同じ系列の大きなお風呂のある所で入浴してもらおう計画もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、習慣に合わせてるように、日中の生活にも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間、入居者様とも確認し合い間違えないように服薬し、飲み込みまで確認している。服薬内容の変更は医師、医療機関より連絡があり、職員の把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味趣向を御家族より聞き、道具の依頼や準備、日々のケアの中に取り入れている		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと め組)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族の協力よりお墓参り、外食、個別ケアの提供より買い物ツアーやドライブ、おやつを食べに出かけたりしている	ほぼ毎日、午前中に施設の周りを散歩している。午後希望者する人が実施している。そのため利用者が風邪をひくことが減っている。家族と外食、外出を楽しんだり、時々、職員と買い物やドライブに出かけた時に好きなお菓子を買ったり楽しみを作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ツアーや外出時に好きなものを選び支払を入居者様に行ってもらおうようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をも所持している入居者様もいたり、御家族にも理解して頂ける様に話し合っている。ホームの電話でも常に連絡の取次をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が作成したものや写真を展示し明るく楽しい空間になるように、写真から会話を引き出し、笑顔が増えるように心掛けている	居間や食堂の照明が和紙でおおわれ、懐かしい色であった。利用者の共同制作の作品が目立つ所に掲示されている。畳のコーナーがあり、椅子と同じ高さで休憩ができる。清掃が好きな利用者がいるとのことで居間も居室も掃除が行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室の活用、気の合う同士と一緒にいられるような、又、一人で過ごせるような環境が提供できるように心がけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの物をタンスや衣類、仏壇、人形などを持って来ていただくようお願いし、生活しやすいように居心地の良い部屋づくりをしている	居室には備え付けのクローゼットがあり、家から持参したタンスを置いてある利用者もいる。部屋の中はきれいに整頓されている。また、仏壇も置かれ、大好きな人形を持ってきて、クローゼットの引き出しに人形の服があり、着替えを楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の希望を尊重し、又、スケジュールの提示場所の表示、混乱しないように物の配置や環境を整えたりしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270800036		
法人名	有限会社 夢無限		
事業所名	グループホーム 夢無限 おおひと		
所在地	静岡県 伊豆の国市 田京929-5		
自己評価作成日	平成30年 3月 29日	評価結果市町村受理日	平成 30年 6月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270800036-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 30年 4月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までの生活とホームでの生活が少しでも近づけることが出来るように心掛けている。ひとりひとりに合った生活リハビリの提供を得意なことが発揮出来る様に計画し提供している。個別のリハビリや体操、散歩をし筋力の低下、ADLの低下を予防に努めている。毎日、外気浴を行い季節を感じて頂く、近隣の方々との交流できる機会を提供している。役割を決め互いに助け合いながら、充実した日々が送れるように支援している。好きな事、趣味が出来るように自由に生活して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を常に見える所に掲げそれに沿った支援、サービスを職員間で共有実践している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	奉仕作業や防災訓練に入居者様とともに参加し交流に努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩中に挨拶や会話をしたり行事への参加、パンフレットの配布などし理解をお願いしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	計画したが、開催できず開催に至っていないものの、近隣との交流に努め行事へ参加している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケア会議に参加し連絡が出来るようにしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する研修や資料提供を職員に行い理解を深め拘束のない支援を心掛けている。		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと い組)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が虐待についての知識を深めケアについて互いに気を付け時に注意しあう環境を作っているまた、家族とも面会時に交流支意見交換を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ガイドブックなどを購入し理解が出来る様に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて説明をしている。電話や面会時に報告させて頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話あう時間を作り、希望を出来るだけ反映できるように心掛けている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に3回の会議があり、報告しアドバイスや方針について話合う機会がある		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と常に話す機会を設け現状報告、勤務についての改善等を行えるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のグループの勉強会、3か月に1回の夢無限開催の勉強会 年1回の研究発表会などがあり、常に学ぶことを提供し参加を促している。ホーム内でもケアについていつでも相談、アドバイスできる環境作りを心がけて対応している		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと い組)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回のグループの勉強会、3か月に2回の夢無限開催の勉強会 年1回の研究発表会に参加し交流できるようにしている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時より本人の言葉に寄り添い不安や要望を知り、安心できる生活を送るための話し合いを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族やケアマネ、管理者と面談をし不安の軽減、要望を支援サービスの説明を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって良い環境とは何なのかを常に意識し、時に必要に応じて他事業所へ相談対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること、今までされてきたことを把握、共有し家事やレクリエーションに反映している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を御家族へ報告し衣替えや外出の協力を得ながら御家族に関わって頂き共に支えて頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を自由に行うことが出来るようになっており本人の要望に合った外出、外泊が計画なくいつでもして頂ける様にしている		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと い組)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活リハビリなど気の合う方と行えるように環境を整えたり、その方の状況に合わせ会話で職員が入り関係を築くことが出来るように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設、入院などをしても訪問、面会をしたり、いつでも連絡を近況を伺えるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを行いながら、希望や以降の把握に努めている。又、職員同士が情報を共有しサービス、支援の提供を行っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や家族との話より多くの情報収集に心掛け、職員間で把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェック表を個々に作成し、日々、月、年間でのあり方を一目でわかるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、入居者様、御家族との会話より思いを感じ必要に応じた介護計画を作成し対応している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況を細かく記録しケアの改善や見直し改善後の状態の把握に活用している		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと い組)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	情報より、家ででの生活と変わらないケアの提供が出来るように業務変更や、柔軟に対応できるように 心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設医により日常の状態を報告しているが、御家族の以降を優先し必要な医療が受けられるようにしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早期発見、早期対応に努め、24時間体制で主治医、看護師に連絡が出来るようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関、御家族と常に訪問、連絡を取り、入退院を円滑に進められるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に話し合い、御家族の意向を聞く、又状態の変化に報告、対応方法を話し合い職員全員が対応できるようにしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、防災マニュアルを作成している。定期的に訓練を行っている。また、職員間で急変時の対応を常に話し合っている		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと い組)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練、他事業所とも避難時の協力体制が整っている。常に情報交換をしている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の性格、人格を尊重し失礼のない言葉かけをするように、職員同士も気を付け対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を増やし、入居者様が何を望んでいるのかを聞き出せるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の出来ることを把握し生活リハビリや個別リハビリをその都度変更して対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品等を持参された入居者さまへ、本人の意向に合わせ身だしなみを整えたり、清潔への配慮も心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を献立や、おやつに取り入れる。準備や片付けを一緒に行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせ、常食からミキサー食まで個別に提供している。1日の食分量、水分量を記録し提供している		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと い組)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔内の清潔に努めている。本人の意思を尊重している。義歯は毎日ポリデントにつけ清潔保持をしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表より個々の排泄パターンに合わせトイレでの排泄を促し、トイレに行きたい時に支援出来る様な言葉かけに気を付けている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立、水分、適度な運動を取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、午後より入浴をしている。希望に合わせてるように時間設定に気を付けている別ユニットでも入浴できるようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、習慣に合わせてるように、日中の生活にも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間、入居者様とも確認し合い間違えないように服薬し、飲み込みまで確認している。服薬内容の変更は医師、医療機関より連絡があり、職員の把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味趣向を御家族より聞き、道具の依頼や準備、いつまでも楽しめる環境作りをしている		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと い組)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族の協力よりお墓参り、外食、個別ケアの提供より買い物ツアーやドライブ、おやつを食べに出かけたりしている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ツアーや外出時に好きなものを選び支払を入居者様に行ってもらおうようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をも所持している入居者様もいたり、御家族にも理解して頂ける様に話し合っている。ホームの電話でも常に連絡の取次をしている。手紙の返事を書いて頂き送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が作成したものや写真を展示し明るく楽しい空間になるように、写真から会話を引き出し、笑顔が増えるように心掛けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室の活用、気の合う同士と一緒にいられるような、又、一人で過ごせるような環境が提供できるように心がけ、職員へ何でも言えるような雰囲気、環境作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの物をタンスや衣類、仏壇、人形などを持って来ていただくようお願いし、生活しやすいように居心地の良い部屋づくりをしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の希望を尊重し、又、スケジュールの提示場所の表示、混乱しないように物の配置や環境を整えたりしている		

目標達成計画

作成日:平成30年6月13日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催	2か月に1回の運営推進会議の開催	年間計画を立て開催する	12ヶ月
2	23	職員研修の機会が少ない	研修により職員のスキルUP	研修参加を増やし、その後の自施設での学ぶ機会を増やす	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。